

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校通信制
-----	----------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標に掲げていた能力や人間力の向上はできた。また、個別指導や学習会で単位取得、就職、進学には対応できたが、就職、進学については参加者が減少しているため、現状の把握と対応の必要がある。 多様な生徒については、各担任の尽力で対応できている、来年度も状況は変わらないため、さらに組織的に対応できるような体制を構築する必要がある。 評価項目にはないが、観点別評価を今年度から導入している。評価は一番大事な問題であるため、来年度も継続して研究をすすめる。
---------------	--

2 学校教育目標	<p>自主・自立を重んじ、知性を高め、人格の完成をめざす。</p> <p>① 心身ともにバランスのとれた能力の伸長を図り、個性を磨く。 ② 自由と責任を両立させて、明るく、思いやりのある学校生活を作る。 ③ 社会の変化に対応できる柔軟性、創造性、国際性を身につける。</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学びを通して、それぞれの課題を解決・克服し、自分の将来を見据えて、自己の在り方・生き方を定め、他者との関わりを大切にできる人間力を育てる。 「高校卒業に必要な資質と能力」「自分自身をマネジメントできる力」「コミュニケーション能力」を育成する。 個別指導をさらに充実させ、学習意欲の向上を図り、単位修得率のアップを目指す。 就職・進学における個別のニーズに応じた進路指導の充実を図る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○(学校独自重点取組) 単位修得率の向上	○(学校独自成果指標) 全学年の単位修得率向上(70%以上)	・「学習のしおり」「樟蔭」の有効活用 ・スクーリング時の学習状況の通知 ・生徒の予習復習の定着を図る ・期限切れレポートについては、返送時に警告する	A	「学習のしおり」は新入時や、活動生のHRで確認に使用されている。「樟蔭」はわかりやすい紙面作成に努めている。「樟蔭」は88%の生徒によく活用されている。	A	スクーリングに「出席できている」生徒は82%、単位取得率「100%」の生徒は76%、「80%以上」の生徒は90%であり、LHRの指導と「松蔭」での連絡が効果的にできた。	A	妥当な評価である。	教務部 学習指導
	○学習会や就職対策の強化	○学び直し学習会や進学学習会、就職対策講座の開催と充実	・「樟蔭」や生徒会等を通して、学習会や就職対策講座の広報活動を行う	A	「進学学習会、就職対策講座」に参加した生徒の80%は「参考になった」と回答している。一定の成果を収めることはできた。	A	参加した生徒の81%は「参考になった」と回答し、一定の成果を収めることはできた。また、共通テストも一定の成果をおさめ、就職希望者もほぼ内定した。	A	妥当な評価である。	学習指導 進路指導
●心の教育	●生徒が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○樟蔭やLHR等を定期的に利用してモラル意識を高める。	・スクーリングでは、朝の挨拶指導や服装等に注視し、高校生としての道德教育を推進する。	A	服装に気を使っていると回答した生徒が67%であった。また、69%の生徒がスクーリングに楽しく参加できている。	A	スクーリング時の服装に「気をつかった」生徒は67%、「楽しく参加できた」生徒は69%であった。学校生活の規律と他者の尊重と協力はできている。	A	妥当な評価である。	生徒指導 教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートの実施(年に2回)	・LHRや学校行事時にいじめ撲滅について啓発活動を実施する。	A	第1回いじめ体罰アンケート調査を7月に実施し、アンケート結果については件数は0件であった。第2回は1月に実施予定	A	前、後期1回ずつアンケート調査を実施したが、いじめ回答はなかった。また、スクーリング時も安心して学校生活を送っていた。	A	妥当な評価である。	生徒指導 教育相談
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通ルールの意識を高める指導の充実を図る ・バイク・自動車通学許可願いの提出	A	交通ルール(自転車、バイク、自動車、徒歩)を守ることができていると回答した生徒は100%であった。	A	本校生徒の登下校における問題や事象はなく、校外における交通事故等の報告はなかった。交通ルールも守ることができている。	A	妥当な評価である。	生徒指導
	○健康診断等の適切な受診の促進	○各種健康診断(学校実施分)の受診率を昨年度より向上させる	・「スクーリング連絡」、『樟蔭』などを活用し生徒へ事前の広報を行い、受診者、参加者を増やす。	A	該当する生徒で健康診断を受診した生徒は75%であった。今後も指導を継続していく。	A	健康診断受診率を昨年度の70%から75%に増加させることができた。今後も受診率を向上させていきたい。	A	妥当な評価である。	教務 保健相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・スクーリング等の振替の弾力化、学校閉庁日の設定 ・出退勤システムの有効活用 ・ICTの活用による業務の効率化	A	定時退勤日、学校閉庁日について問題なく実施できている。業務についても見直しをすすめ、生徒への電話連絡はアプリで代替できた。	A	昨年度からの振休の自由化に校内業務を対応させることができ、教職員が休暇と業務を無理なくすすめることができるようにした。	A	妥当な評価である。	副校長
	○労働環境の改善	○「時間外業務が削減された」と回答した教職員 70%以上 ○「職場の環境改善が行われた」と回答した教職員 70%以上	・業務の効率化と代替、縮減、標準化 ・衛生委員会の協議事項の確実な実行 ・産業医面接の活用	A	時間外は月平均15時間49分であり昨年度の同時期より約50分少なくなった。4月、9月の時間外が多いため工夫したい。衛生委員会の協議事項は実行している。産業医面接はここまで該当者はいない。	A	1月までの時間外は月平均15時間6分であり、1昨年度から2時間30分、昨年度から50分減少した。産業医面接の該当者はいなかった。	A	妥当な評価である。	副校長

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目については概ね達成できた。重点目標に掲げている能力や人間力の向上ができたのではないと思う。また、個別指導や学習会で単位取得、就職、進学にも対応できた。進学についての参加者が増加傾向であるため、対応改善の必要がある。 多様な生徒については、各担任の尽力で対応できている、来年度以降も状況は変わらないため、さらに組織的に対応できるような体制を構築する必要がある。 入学者が増加傾向であるため、入試業務や科目登録業務に支障が出てきている。入試業務等への対応のため、スクーリング日程等を大きく変更した。科目登録についてもICT等を活用し改善をすすめていく必要がある。
----------------	--